

「安江チルドレン」と光栄にも言われて —記録の復活：皆で日本・世界のより明るい未来をつくろう—

前略 安江（小出）いずみ様

お世話になっております。（株）国際マイクロ写真工業社 会長 森松義喬と申します。



「2021年・令和3年1月29日 安江明夫様 腎細胞がん 75歳 死去」とご報告を頂き、 《本 HP》

コロナ禍 + 自分の病気（2020年4月脳溢血）でご葬儀にお伺い出来ず「残念」と感じておりました。

しかし「寄稿集」を作られるとの事、本当に素晴らしい事と思います。

「読み書きそろばん」が地球上で唯一可能な人間という生物、その「記録の作成 保存と活用」

の更なる充実は、真に安江明夫様が目指していた事 と思っております。

私は父 国際マイクロ創業者 森松幹雄の遺稿集を2001年に作り、思いっきり次にスタート出来ました、ので。

安江明夫様と森松義喬の「ご縁」を思い出して下に現状を記します。よろしく願い申しあげます。草々

## 記

安江明夫様の周りで「記録・資料の保存等」に関わり、安江明夫様が認めてくれた人々の総称は

自然とそう呼ばれております。

### ● 国立国会図書館（NDL）ご退任のお祝いの会：

東京都港区神谷町で行われた安江明夫様のその「会」の席に50名以上が参加しました。



<https://kmsym.com/bunken/2022001.jpg>

（顔認証出来ないレベルに画質を調整）

- ◆ 日本マイクロ写真 営業部長 森井晃彦様（マイクロ撮影業界の森松の先輩）
- ◆ 国際マイクロ写真 代表取締役社長 森松義喬（2代目社長） マイクロ撮影業界から「2名のみ」が参加。

当時 国立国会図書館のマイクロ化作業は日本マイクロに集中 ゆえに著名ながらも安江明夫様と私は一面識しか無かったので、私の氏名が「会」の参加名簿に入っていた事は嬉しい限りでした。

「記録の保存を本気で言う人」の多くが

「安江チルドレンなのだ」

と会にご参加の「記録保存の各分野」等でご活躍されている超一流の御歴々の方々（当時 約 20 名近くが森松の顔見知り）、ご紹介戴いた方々と若干ながらもお話ができ、とても驚きつつも改めてそう感じた次第です。

### ● 新聞沙汰・マイクロフィルムは長期保存できる？：

各マイクロフィルムメーカーの言われる事を各撮影ラボ業者は信じ、

「半永久、又は 500 年保存（期待寿命）が出来る」と言われていた 記録のマイクロフィルム化。

1985 年 私が国際マイクロ入社時より お客様に納品時等「乾燥剤」を平行してお進め、しかし多くはその儘。

1993 年・平成 5 年 12 月末、マイクロフィルムの長期保存には 乾燥剤・吸着剤 等 人による保存管理が必要である との事が明確となり ビネガーシンドロームの現象により「長期保存には適さない事例がある」と、朝日新聞記事を始めとして大きく取り沙汰され始めました。

その情報は各図書館・資料館等 エンドユーザーは勿論ですが、マイクロ業界にも激震を走らせました。

「公演」（説明）の「ご依頼」が、「記録史料の保存を考える会」（当時の）からマイクロ業界に早々にあり、森松はその会員ですが 逃げたい感情が芽生えつつも、より最新の世界中の「マイクロフィルム保存」の情報収集を行いました。そして朝日新聞記事を国内メーカー責任者に見せ「対応」を時間の許す限り聞きました。私は 日本で過去販売された各メーカー、各種類、TAC・PET フィルムベース比較（海外のマイクロフィルムメーカーにも連絡）を解る限り「表」にまとめる等も急ぎました。



<https://kmsym.com/bunken/local/hyou001.pdf>

◆ 「公演」（説明）の「ご依頼」を最初に森松義喬が請けた事。（翌日から他各社はマイクを握る）

【その席 マイクを熱く握り締め “特に TAC ベースのマイクロフィルムは温湿度等の管理が無くては、ビネガーシンドローム現象だけでは無く銀鏡やマイクロスコピックブレミッシュ等 マイクロフィルムの長期保存に弊害をもたらす” 等も敢えて話しました】

【国際マイクロが倒産する事をも覚悟して】

◆ また 安江明夫様が国際マイクロの HP（ホームページ）を読まれたの事。

【大元の情報は nifty 〈まいと〜く〉でパソコン通信用に森松義喬が集めて作成】

それら◆の事等が安江明夫様に届いて「安江チルドレンの公認」、と誠に勝ってながらそう感じております。

● 国立国会図書館 ご退任の後：

安江明夫様は多くの記録保存のご講演をされており、その中に「劣化マイクロフィルム対策」もありました。マイクロフィルム劣化テスト用「AD ストリップス」（リトマス試験紙の様な物）は、フィルムの劣化具合を計れます。マイクロ撮影会社の「罪ほろぼし」にはほど遠いのですが、国際マイクロ資材販売部で利益を極力抑えての「AD ストリップス販売」をアメリカより仕入れて始めました。

「AD ストリップスの切れ端でも良い 講演会に来た人にぜひ配布したい」

と安江明夫様から森松にご依頼され、毎々お受けできるように国際マイクロの朝礼等で社員に指示しました。また安江明夫様より「AD ストリップス」の[取説：英語→日本語訳チェック](#)を有難い事に行って戴きました。

● 安江明夫様ご他界 その年の秋に 経済産業大臣様の受賞式：

「情報処理」等を仕事後に 1980 年後半より大原学園にて学び、ゆえに中央官公庁等に「情報のデジタル化」の提案、いち早い実現に協力しております。

群馬県にて それら事実を記載して提出。下記 HP 「マスコミ評価の違い」（表の右上 2021 年 10 月）のとおり 経済産業省大臣様から「情報化促進貢献個人賞」の表彰。安江明夫様ご他界直後でご報告が出来ず 残念です。



<https://www.kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5>

● 国立国会図書館 大量電子化で培った技術等は「国の宝」：

2010 年・平成 22 年 通年予算の 50 倍以上？、国家プロジェクト記録のデジタル化 の総予算は約 127 億円。当時 誰しもの入札に疑問、しかし約 7 億円を官公需適格組合規定で首都圏ソフトウェア協同組合と共同受注。

始めに デジカメ撮影技術等の伝授を「素人の人材派遣員」に 1 か月でセミプロ級に育てる事に挑戦。

応募（記録のデジカメ撮影で）して来た人材派遣員の方 約 3000 人から約 300 人を選定して実行 ・ また

アプリケーションソフトは 70 種類以上、予測不可能なトラブル等が生じる度に作業中に逐次作成。

森松は首都圏ソフトウェア協同組合各 SE 方へ（1000 人以上いる）Microsoft Access 等での機能をお願い。

各アプリケーションソフトの作業指示は国際マイクロ担当者等が行う。（各ソフトの所有者は国際マイクロ）

「NDL の仕様書」にも記されて無い その他様々な対応をこなしながら、徐々に 出来得る「力」となる。

最終的には「外注無く対応出来る技術力」等を有した「記録の大量電子化出来る」「世界唯一の会社」と

偶然か必然か成り得ました。品質とは無関係な予想だにしない障害も生じ、誠意ある協力者等と共に完納。

他のデジタル化業務落札の 各大企業は 5~15 社の下請け（下請けの下請け等は当然に未確認）で対応の様子。

国際マイクロ 2 代目社長の「目の前に現れた事柄を前向きに受けとめる」から生じた非常に貴重な[体験](#)。

それらを今後 大きく「活かす方法がある」事に森松は気が付きました。

## ●「情報の公開」：

です。日本国中の多くの古文書が「ホッタラカシ状態」または「消滅」、デジタル化・分散管理され無い儘に予算が少なく手付かず。 近未来 現代語訳が可能な高画素デジカメ撮影技能等、その「オープン化の準備」。

公開範囲は原寸 400dpi：それ以上のとても高い画像を追求する全国プロ撮影会社を倒産させ難くする為 等。

また 【古文書が 全国各地域に在るが毎年の様に非常に多くが 人災・天災により 消滅】する最中、

【中国・ロシア・北朝鮮・韓国・台湾 等 軍備・政治経済等が 凄い勢いで 進展】する最中、

**【47 都道府県の 高齢者・専業主婦・障がい者・若年無業者 [ニート] 等 (潜在的労働者 → 顕在化) が、全国の各地域にある古文書のデジカメ撮影等を行う。より多くの日本人・日本政府が 古文書の重要性を理解し新規に国家予算を組み、全国各県のプロが教える仕組みを新たに創ってでも、分散管理を進めよう】**

と社内外に森松は話す様になりました。

一見「真新しい」と思える事を話せば、最初は 100 人うち 100 人が不賛成。(説明不足も有りますが、、)

資本主義・民主主義 故、国際マイクロの利益のみを追う 為、か反対の声が社内外から未だに途絶えません。

2012 年頃： 全国と同業者経営陣からの「協力」は当然にほとんど皆無でしたが

2022 年頃： 新規 国家予算が付いた際には「教え代」を貰える事を前提とし、全国 8 割以上の同業者経営陣に森松が説明・説得 (現在まで約 10 年：時に何度も) して参加の予定です。

## ● 全国の潜在的労働力 デジタル化の「レベル UP」：

多くのアドバイスの一つに “47 都道府県の、特に高齢者へ、1~2 か月でのデジカメ撮影教育の合格率は 10 倍などでは無く 100 倍以上” との話もありますが森松は「それでも良い」と思っております。理由は、

「メールの送受信」「You Tube 等の使用」「古文書のデジカメ撮影等」を 47 都道府県で「教育」を行い、その合格者を雇用、もちろん不合格となった人も 最初に「同じ教育」を受けられるからです。

合否判定は本人にとって重要ですが、不合格者となった人も「デジタル化教育」自体、「やる気のある人間」が様々に 次のチャンスに、更なる地域の効率化 等に、繋げる事も出来ます。 またそれは、日本中の

「やる気の無い人・無いフリをしている人」も含め 若干なりとも「影響」して行くと思っております。

## ● 「日本政府に提案」(NDL 大量電子化の技術力等をもとに)：

森松義喬は 歴史の研究者 そして歴史学教授 方々の応援・協力、 またボランティア活動 (2 件) で **“本業”** とのご縁が繋がり 10 人以上の 与・野党の先生方・秘書方にも出会え、 様々なアドバイスも戴き

「全国各地域の古文書をデジカメ撮影 (潜在的労働力で) して後世へ」を「政府へ提案」し始めました。

「中央官庁の“受賞”が新規予算化に繋がる」とのアドバイスもあり、様々な方法を進めつつあります。



【日本オープンイノベーション大賞様 2022年・令和4年8月1日 申請 令和5年2月回答】

<https://kmsym.com/bunken/nihon2022.pdf>



【環境省様 2022年・令和4年9月20日 申請】

<https://www.kmsym.com/bunken/kankousyou.pdf>

### ● 「小企業のみ」だからこそ継続できる「温故知新の実行」：

実現には、国内の「産・官・学・民」、それぞれの協力・少しの妥協が必要です。

「官」の新規予算化、「学」の各地域 古文書の調査、「民」の底力 が必要です。特に「産」のデジカメ撮影技術力を持つ全国各県の指導会社を「この仕事の受注による倒産」をさせない事 かつ「儲けすぎ無い・損し無い」という、文字通り「新しい資本主義」という荒技を乗り越える様な事も必要となるかもしれません。

また 大企業の方は過去、「売上・利益 UP 至上主義」ゆえに「金額の割に口だけ出してとても面倒」という経験があまりにも沢山あります。

しかし今回は、日本経済復活の為に「儲けすぎ無い・損し無い」という考えを一緒にする集団であれば、自社のプライド・見え等を口にしなければ、そして

技術指導力の確保・維持が対応出来れば、多くの企業が参加しても、実は良いのですが・・・。大企業が参加の手を上げ、国や県が万一応えれば、各地域の小企業はその大企業の「言いなり」（多かれ少なかれ）です。

実際にシャッターを踏むのは、47 都道府県に在住の選ばれた「潜在的労働者」、

その人達を指導するのは 国際マイクロに直接教育された「各県の古文書デジカメ撮影プロ」、なのです。大企業が参列する必要性は全く見当たりません。そして大企業を一見味方にしない様な文面を書く人も 日本にはほとんど皆無です。（大企業でも デジタルカメラや接写台座等 大量に作成・購入できる材料屋は 別）しかし、日本経済の復活「温故知新の実行」は非常に重大な任務・出来得る人が行わなければなりません。



### ● 利益：

そもそも国際マイクロが大きく利益を出す事を望んだら、皆が内々でそれを真似をし「血税」で対応するこのプロジェクトが長く機能し難くなる恐れも生じ、しかし 赤字続きでは会社が維持出来ず本末転倒です。

国際マイクロは 売上向上・利益向上 を 2代目社長森松義喬はここ十数年前より唱ってはおりません。

「絵に書いたような良い会社、」との揶揄があれば「自分の理想とする現実に挑戦」を今 疎かな人の言葉。国際マイクロが 毎営業日朝 社員で唱和 [私たちの3つの方針](#)の通り、（コロナ禍故 現在 唱和に例外も有り）

【私たちは情報サービス業をととして「文化の継承と進歩」の

原動力となり より社会的存在価値のある専門技術者集団をつくります】 を今まで通り実行するだけです。

先ずは国際マイクロが「儲けすぎ無い・損し無い」情報を正直に公開。やがて日本経済復活に繋がる作業、「産・官・学・民」の「産」の「お手本」に成らなくてはなりません。

そして全国各県で「潜在的労働者の顕在化」に協力する指導会社が「税金を沢山？ そこそこ？ 払える仕組み」をも検討、「日本政府の考え・ご指示」に従います。

### ● 国の向かう方向 ・ 温故知新の実行：

近未来・未来に日本が、不景気に 落ち込もうとも・落ち込ま無くとも、又あらゆる戦争に 巻き込まれても・巻き込まれ無くとも、 例え 大借金をしてでも、内需拡大してでも、「温故知新の実行」の時。

急いで「智の集積」「全国の古文書のデジタル化」「分散管理」を日本人各地域の皆で協力して実現。

そう出来得る力を「日本人は発揮出来る」と国際マイクロは実際に働き確証しています。

「TOPクラスの識字率」を世界中で日本人は誇り、その証拠となる全国各地域の「古文書」。それが地震・台風等の「天災」・保存を疎かに考える「人災」で毎年の様に相当な量が消滅。（紙背文書等含め）

そうなる前の高画素のデジカメ撮影が急務。東日本大震災でも多くの古文書・記録がデジカメ撮影されずに「海へ」と消えて無くなりました。



《江戸時代 寺子屋の図》

「人の命」は最も大切。「人が生きた記録」も次に大切です。

巨大地震は「近々必ず起きる」との理由・データが次々に公表。

「南海トラフ地震」等も各地域の古文書「デジカメ撮影の完了」を

待ってはくれません。

古文書の ◆デジタル化：による分散管理 ◆移動：標高 70m 以上の神社等へ 2 点が非常に急がれます。

### ● 「教育体制」の構築と継続：

国・政府から新規予算がついた時、日本中の各会社・プロの撮影技術者を プロ中のプロである国際マイクロに集め、ゆくゆく古文書文字の OCR 変換（AI 利用）が可能な範囲 原寸 400dpi の高い画像の撮影技術等の「画質の統一」等を行います。その「指導状況」をも「動画撮影」して教育の為に全国に「配信」の予定。おおまかな仕様書は 2020 年に国際マイクロにて出来上がりました。新規予算化が成れば、過去受注約 7 億円のうち 5000 万円以上かけて作成した画像加工等 70 項目以上のアプリケーションソフトが全国各地域の

「古文書デジタル化」の作業に必要な為に、国際マイクロが全国各地域に無償で提供します。

既に 2020 年・令和 2 年以前に作成を開始した画像参照用ソフト 5G 対応 非フラッシュバージョン [km-i-view](#) (ケーエムアイビュー) の無償提供を森松義喬は 2022 年 5 月に実施。(クリエイティブコモンズ 4・0)

近い将来 古文書 各文字の OCR 変換が可能となろう、そして世界に恥じない「高い画像品質の統一」等を、日本国内で[継続体制](#)も含めて進める。各地域の過去情報の保存活用あつての「地方創生」、本当のスタート。

各地域の「プロ」の撮影等を含め「教える力」が必要。そして全国各プロへの統一した「指導」が必要。仕様の統一・原本状態毎に異なる撮影指示の統一・機器の統一(教え易さの統一)・アプリケーションソフト毎の操作の仕方の統一・品質の統一等、その「指導」が出来るのは世界中に国際マイクロ以外にありません。

#### ● 世界も知りたい “国際マイクロの技術” :

アメリカ インターネットアーカイブ社長 ブルースター・ケール氏 ・ 国内大企業 等、国立国会図書館 (NDL) 大量電子化をたった一社で行っている国際マイクロの「噂」を聞きつけて、「NDL 大量電子化を行う [国際マイクロ潮見工場](#)の見学を希望」当然にお断り。それらの「公開・提供の準備」、目的は「温故知新の実行」による「日本経済の復活」です。

#### ● 「やれる人間が行う」 :

現在の国際マイクロ社長は実妹 (3 代目) であり そこそこ優秀ですが普通の人間です。しかし会長 (筆頭株主) である森松義喬が「脳溢血だから諦める」、という「次元」では無い時・内容です。

「全国の古文書の潜在的労働力によるデジカメ撮影」は多難を乗り越えた経験者で無ければ出来ません。そして今、資本主義・民主主義の国では通常は出来ません。「温故知新の実行」の中心で「指導出来得る会社」が今、日本に一社有ります。「安江チルドレン」が生きている内に行うのみ。

★2020 年 4 月 森松義喬は 57 歳で脳溢血、現在は右手足が少し不自由なくらいで メールや TEL は可能。27~57 歳まで「朝の散歩と運動」を土日祝日以外ほとんど欠かさず、しかし軽い脳梗塞を繰返し脳溢血。

現在はこの文面の作成のように意思表示が可能、偶然・必然を飛び越えての事でしょう。

“不思議なご縁” (人も時期も機会も)、そして見えない “力”、 に押されてと感じております。

節税対策で、父 森松幹雄は数億円単位の大きな借金、妻と子供達にと 約 30~40 年前頃から群馬を含めアパートを数件経営。現在その安寧に甘える気持ちは森松義喬が生誕した時より無いようです。笑

脳溢血後のここ 2 年以上 国際マイクロの会長として 群馬県にて活動中。

5 つの HP 等の UP も 群馬発、 経済産業大臣様 等の受賞申請も 群馬発、 簡易な保存の仕事も倉庫業も合宿もできる別邸作成の準備も 群馬発、 全国同業者経営陣 等との情報のやり取りも 群馬発。

## ● 「本気の人」：

「新規の国家予算の実行」「温故知新の実行」の時には、「古文書を後世に残そう」と本気でアクション出来る人の協力、「力」「技」も必要となるでしょう。

しかし それらの事毎も 今 安江明夫様にご相談が出来ず、本当に、大変に、残念でなりません。

★しかし「待った」はもうこれ以上 出来ません。「安江チルドレンとして恥じない」、そして安江明夫様の「思い」を少しでも継承しつつ、森松義喬は脳溢血ながらも命ある限り「古文書の保存・活用」の大切さを 更に更に熟知し、より多くの日本人に説明・実行して行かなければなりません。

★世界中が **智の集積の管理** を今後日本がどうするのか？ 少子高齢化対策等 下の通り日本がリード可能。  
「識字率世界最高峰」「日本各地域に古文書がデジタル化されずに大量に在る」「真面目で器用な人材」  
「古文書文字の現代語・AI が急速に進展」「それによる地方創生」「高性能な国産デジタルカメラ多種」  
「記録の大切さを理解する人材」「安江チルドレンの様な人材」等 条件が整った国は他に見当たらない。

「安江明夫様」等 又多くの「古文書を書かれた・遺した」方々が「あの世で見守っている」事を信じて、  
今 生きている「本気の人」が冷静かつ着実に可能な限り、今 日本に遺る記録の管理を言動して参ります。

「安江明夫様 記録・資料の保存・活用に本気の人をぜひお見守り下さいませ」 草々

2022 年・令和 4 年 8 月

(株) 国際マイクロ写真工業社 会長 森松義喬

[kmsymym1962@icloud.com](mailto:kmsymym1962@icloud.com)